

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-72C	C-72C	14-117
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
Alcohol intake, alcoholic beverage type and multiple myeloma risk: a meta-analysis of 26 observational studies. 飲酒、アルコール飲料の種類と多発性骨髄腫のリスク : 26 の観察研究メタアナリシス		
執筆者		
Psaltopoulou T, Sergentanis TN, Sergentanis IN, Karadimitris A, Terpos E, Dimopoulos MA.		
掲載誌		
Leuk Lymphoma. 2014 Nov 20:1-18. [Epub ahead of print]		
キーワード		PMID
アルコール、多発性骨髄腫、メタアナリシス、ワイン、ビール、リキュール		25146435
要 旨		
目的： このメタアナリシスは、飲酒と多発性骨髄腫のリスクとの関連について調査することを目的とした。		
方法： PubMedにて2013年12月31日までに発行された論文を検索し、研究デザイン、性別、アルコール飲料の種類、および飲酒量毎(≤12.5g/日、12.5~50g/日、≥50g/日)にメタ回帰分析を行った。		
結果： 16の症例対照研究(3,921名の症例と19,594名の対照)と10のコホート研究(合計2,557,649名の対象者のうち3,167名の新規発症)が検索条件に合致した。「飲酒歴があること」は、多発性骨髄腫のリスク低下と関連しており(pooled relative risk(RR): 相対リスク=0.88、95%信頼区間: 0.79-0.99)、特に、ワインの飲酒が多発性骨髄腫のリスク低下と相関があった(pooled RR=0.77、95%信頼区間: 0.67-0.89)。多発性骨髄腫のリスクは、ビールやリキュール類の飲酒と関連を認めなかった。飲酒の多発性骨髄腫に対するリスク低下は、男性で全く認められなかったのに対して、女性においては認められた(pooled RR=0.79、95%信頼区間: 0.69-0.89)。		
結論： ほとんどの固形腫瘍と飲酒の関連性には反して、多発性骨髄腫のリスクに関しては、女性において飲酒は予防的に働き、特にワインの飲酒が有益であると考えられた。		